

# 2025年3月期 第1四半期 決算概要

2024年8月8日

テルモ株式会社  
Chief Financial Officer  
萩本 仁



CFOの萩本でございます。2025年3月期 第1四半期の決算概要を説明いたします。

## おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

## ■ ハイライト

### ■ 売上収益

- 四半期として過去最高
- 全カンパニーで需要が継続、為替も寄与し全社で+19.9%の伸長

### ■ 利益

- 営業利益・当期利益ともに、四半期として過去最高
- 適切な費用管理により売上成長を上回る伸長

本決算のハイライトです。

第1四半期は、売上収益、営業利益、当期利益の全てにおいて、四半期として過去最高を達成することができました。

売上収益は、全カンパニーで需要が継続、為替も寄与して前年比較で約20%の成長となりました。

利益は、適切な費用管理により、売上成長を上回る伸長となりました。次のスライドをお願いします。

## P&L実績

- 売上収益：価格政策の効果や、一時的要因もあり全カンパニーで好調な伸長
- 営業利益：売上増の寄与と、適切な費用管理による利益率の改善

金額（億円）	FY23 Q1	FY24 Q1	増減率	為替除く増減率
売上収益	2,153	2,582	20%	10%
売上総利益 (%)	1,098 (51.0%)	1,376 (53.3%)	25%	12%
一般管理費 (%)	651 (30.2%)	748 (29.0%)	15%	5%
研究開発費 (%)	154 (7.2%)	174 (6.7%)	13%	5%
その他収益費用	3	-8	-	-
営業利益 (%)	296 (13.8%)	446 (17.3%)	51%	24%
調整後営業利益 (%)	345 (16.0%)	511 (19.8%)	48%	24%
税引前利益 (%)	298 (13.8%)	456 (17.7%)	53%	
当期利益 (%)	225 (10.5%)	339 (13.1%)	50%	

期中平均レート(USD/EUR) 137円/150円 156円/168円

©TERUMO CORPORATION

4



PL実績です。

売上収益は、全カンパニーで二桁伸長を達成し、2,582億円と過去最高となりました。

個別事業では一時的要因により増収となった部分もありましたが、総じて良好な事業環境での需要の継続に加え、価格政策の効果が寄与しました。

詳細は、後ほど地域別・カンパニー別のページでご説明いたします。

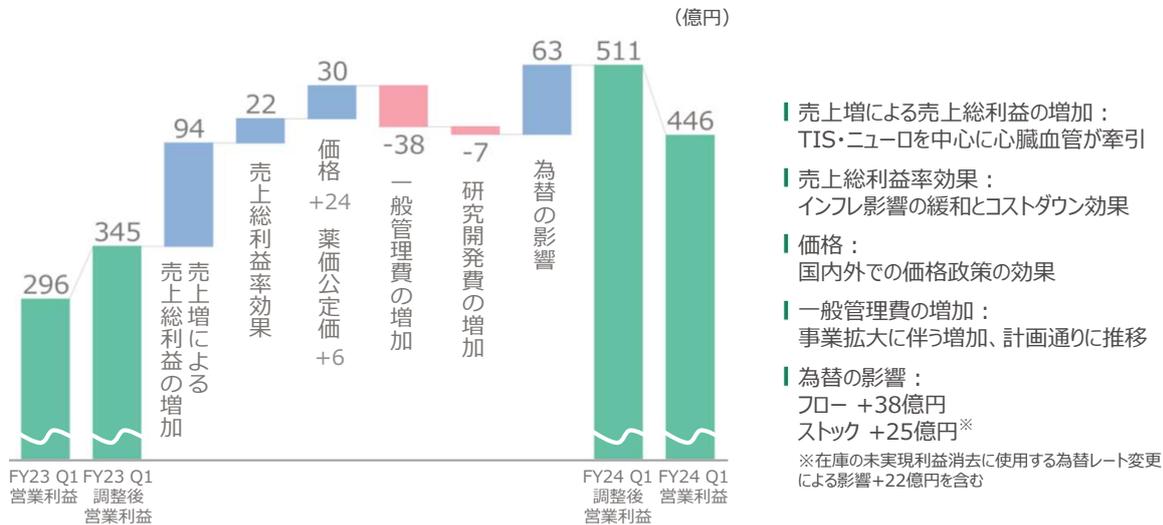
営業利益も、売上成長を大幅に上回る伸長を達成し、過去最高の446億円となりました。

これは、売上拡大に対して、適切なコスト管理により利益率の改善を実現したことによるものです。

インフレ緩和の影響もありましたが、原材料価格や輸送費の高騰などマクロ環境の変化については、予断を許さない状況と認識しておりますので、引き続き注視していきます。

次のスライドをお願いします。

## 営業利益増減分析 (Q1) : 需要継続による売上が貢献



©TERUMO CORPORATION

5

TERUMO

第1四半期における、前年同期比の利益増減分析です。

全体的には、需要継続による売上の増加が大きく貢献しています。

まず「売上増による売上総利益の増加」は、一部に一時要因を含むものの、TIS・ニューロバスキュラーを中心に心臓血管カンパニーが牽引しました。「売上総利益率効果」は、インフレ緩和と生産の効率化などのコスト削減策の効果が寄与しました。

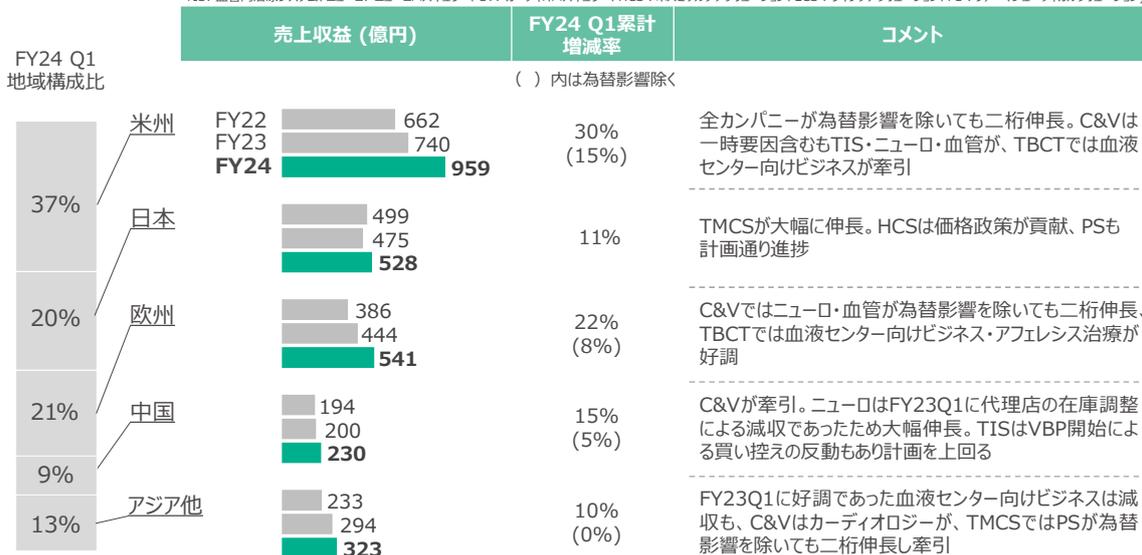
「価格」では、昨年度に拡大した価格政策の見直し効果が表れています。国内で昨年度下期に実施した価格見直しは、今年度の上期にわたりプラスに働きます。「一般管理費の増加」は、事業拡大に伴う健全な増加であり、計画通りに推移しています。「為替の影響」は、フローに+38億円、ストックに+25億円でした。このストック+25億円のうち22億円は、今年度から在庫の未実現利益消去の算定に使用する為替レートを変更した影響です。

詳細は次のスライドでご説明します。次のスライドをお願いします。



## 地域別売上収益：一過性の需要も寄与し、全地域で順調に進捗

(C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー  
TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー、CV: カーディオバスキュラー、HCS: ホスピタルケアソリューション、LCS: ライフケアソリューション、PS: ファーマシューティカルソリューション)



©TERUMO CORPORATION

7

TERUMO

地域別売上収益です。

一過性の需要による売上拡大もあり、全地域で順調に進捗しています。

米州では、全カンパニーが為替の影響を除いても二桁伸長となり、全地域中最大の伸び率となりました。

心臓血管は、前年同期に一部のアクセス製品で供給問題があったTISの回復と、ニューロバスキュラーおよび血管の売上が好調でした。血液・細胞テクノロジーでは、血液センター向けビジネスが成長を牽引しました。

日本は、メディカルケアソリューションズが大幅に伸長しました。これは、ホスピタルケアソリューションにおける価格政策の効果と、前年同期に納期の期ずれが発生して減収であったファーマシューティカルソリューションの堅調な進捗によるものです。

欧州は、心臓血管のニューロバスキュラーと血管が、為替影響を除いても二桁伸長となりました。血液・細胞テクノロジーでは、血液センター向けビジネスおよびアフレスシ治療が好調でした。

中国では、心臓血管が牽引しました。ニューロバスキュラーは、前年同期に代理店の在庫調整による減収であったこともあり、大幅な伸長となりました。

また、TISアクセス製品は、集中購買による新価格適用の開始による買い控えの反動もあり、計画を上回りました。

アジアや中東などの新興国では、前年同期に好調であった血液センター向けビジネスは減収となりましたが、

心臓血管はカーディオロジーがメディカルケアソリューションズではファーマシューティカルソリューションが為替影響を除いても二桁伸長し牽引しました。

次のスライドをお願いします。

## C&V：欧米が牽引し売上・利益ともに計画を上回る

(C&V: 心臓血管、TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー、CV: カーディオバスキュラー)

(億円)

	Q1			コメント	Q1 売上増減
売上収益	( )内は為替影響除く				
	1,168	1,306	1,567	TIS : 北米で一部アクセス製品の供給問題が解消したことにより、 為替を除いても二桁伸長で牽引	+148
			+20% (+8%)	ニューロ : 需要継続に加え、FY23Q1の一時的な減収もあり、グ ローバル各地域で為替影響を除いても二桁伸長	+64
調整後 営業利益	280	269	372	CV : 装置需要が一巡するも、北米が牽引	+14
			+38% (+13%)	血管 : 北米・欧州が牽引。ステントグラフト・人工血管の好調な 販売拡大に加え、ハイブリッド製品も順調に展開	+35
				利益 : 一時的要因含む増収と収益改善策の効果に加え、販管費 のコントロールが順調に進捗し増益	
利益率	FY22	FY23	FY24		
	24%	21%	24%		

©TERUMO CORPORATION

8

TERUMO

カンパニー別に業績をご説明します。まず、心臓血管カンパニーです。売上収益は、為替を除いて+8%伸長と、欧米を中心にグローバルで好調でした。

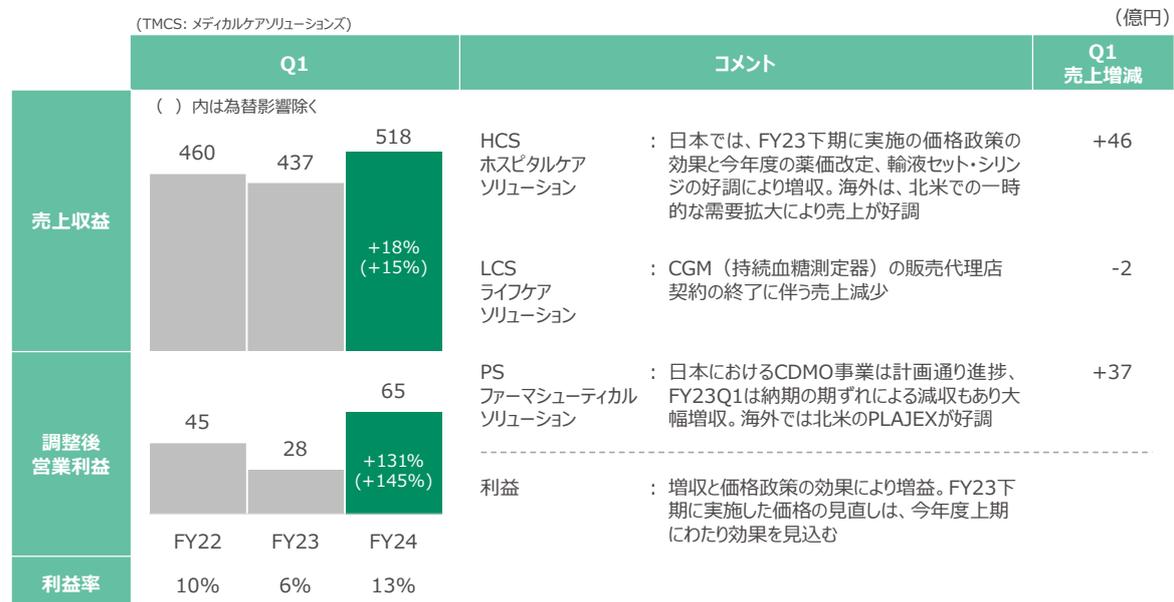
事業別伸長率では、ニューロバスキュラーと血管が牽引しました。ニューロでは堅調な需要の継続に加え、前年同期に一時的要因による減収もあり、大きく伸ばしています。

血管は、ステントグラフトおよび人工血管の好調な売上拡大と、ハイブリッド製品も北米・欧州を中心に順調に展開しました。

また、北米で供給問題があった一部アクセス製品は回復しております。利益は、一時的要因を含む増収に加え、収益改善策の効果、また販管費のコントロールが順調に進捗し増益となりました。

次のスライドをお願いします。

## TMCS：一時的要因による売上増を含むも、価格政策の効果で増収増益



©TERUMO CORPORATION

9

TERUMO

TMCS、メディカルケアソリューションズです。

売上収益は、ホスピタルケアソリューション および ファーマシューティカルソリューションで大きく伸ばしました。

ホスピタルケアでは、価格政策の効果と、輸液セットおよびシリンジの好調な売上が貢献しました。

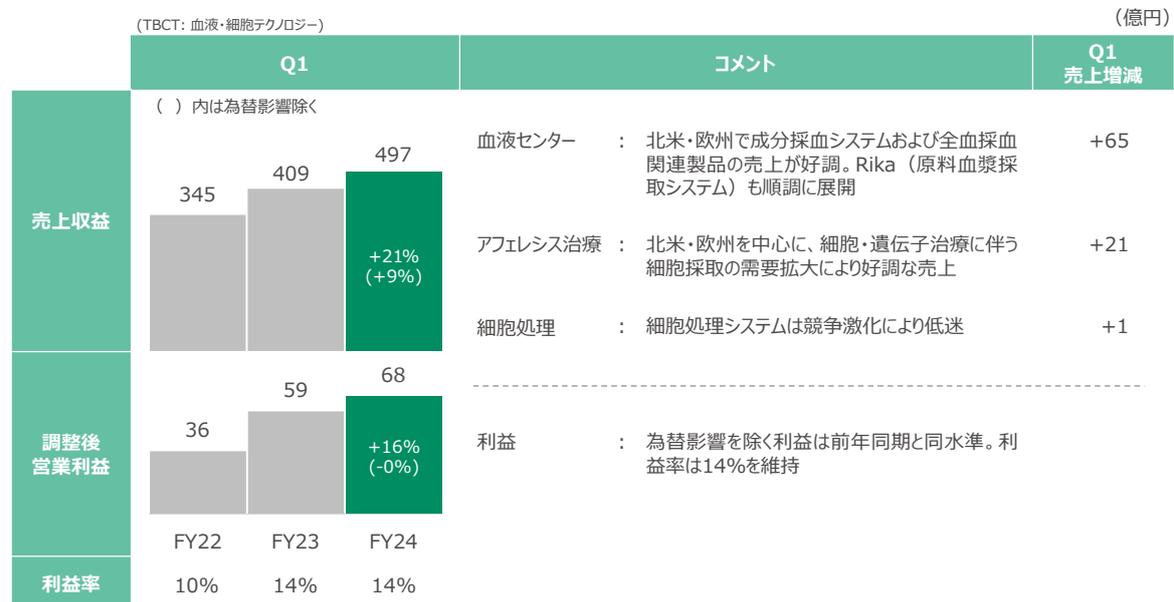
国内で昨年度下期に実施した価格見直しは、今年度上期にわたり増収に寄与すると想定しております。また北米で一時的な需要拡大があり、売上の押し上げ要因となりました。

ファーマシューティカルでは、CDMO事業において、前年同期に納期の期ずれが発生したことに比較し、順調に進捗しています。海外では北米のPLAJEXが好調でした。

これら増収と価格政策の効果により、増益となりました。

次のスライドをお願いします。

## TBCT：血液センター向けビジネス好調による売上拡大



©TERUMO CORPORATION

10

TERUMO

TBCT、血液・細胞テクノロジーです。

売上収益は、血液センター向けビジネスとアフレスシ治療が牽引しました。

血液センター向けビジネスは、欧米で成分採血システムおよび全血採血関連製品の売上が好調でした。Rikaも順調に展開しています。アフレスシ治療は、北米・欧州を中心として、細胞・遺伝子治療に伴う細胞採取の需要が拡大しており、好調な売上でした。

為替影響を除く利益は前年同期と同水準となりましたが、利益率は14%を維持しています。

次のスライドをお願いします。

## 現下の環境認識

変化なし



### ファンダメンタルズ

総じて健全  
需要・成長ポテンシャルは引き続き良好

不安定



### インフレ

インフレ緩和傾向も注視が必要  
(原材料、輸送費、エネルギー等)

不安定



### 為替変動

依然として先行き不透明

加速



### 自社戦略

GS26の確実な実行と、  
大胆なプラスα（ポートフォリオ最適化）の実施

最後に、現状の経営環境の認識についてです。

まず事業としてのファンダメンタルズについて、これは総じて健全であるといえます。需要および成長のポテンシャルに変化はなく、心臓血管カンパニーをはじめとする事業全体の成長性に揺るぎはありません。

一方、インフレや為替変動などマクロ環境に関しては、依然として不安定であり、今後も注視が必要です。先行きの不透明感から、ガイダンスの修正は状況を見極めながら慎重に行う予定です。

自社戦略は、加速させていきます。

GS26で描いた戦略を確実に実行していくとともに、まずは事業ポートフォリオの再点検を徹底、そして最適化に向けてスピード感をもって取り組んで参ります。

また、イノベーション強化の一環として、コーポレートベンチャーキャピタルを発足させました。これにより、新技術の獲得やM&Aのパイプライン構築などのスピードを加速していきます。

以上で私からの説明を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

## 参考資料

## P&L（四半期推移）

（億円）

	FY23 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)	
売上収益	2,153	2,286	2,391	2,389	2,582	
売上総利益	1,098 (51.0%)	1,185 (51.8%)	1,266 (52.9%)	1,243 (52.0%)	1,376 (53.3%)	
一般管理費	651 (30.2%)	664 (29.0%)	707 (29.6%)	737 (30.9%)	748 (29.0%)	
研究開発費	154 (7.2%)	164 (7.2%)	173 (7.3%)	199 (8.3%)	174 (6.7%)	
その他収益費用	3	12	5	39	-8	
営業利益	296 (13.8%)	368 (16.1%)	390 (16.3%)	346 (14.5%)	446 (17.3%)	
調整後営業利益	345 (16.0%)	411 (18.0%)	441 (18.5%)	371 (15.5%)	511 (19.8%)	
四半期 平均レート	USD EUR	137円 150円	145円 157円	148円 159円	149円 161円	156円 168円

©TERUMO CORPORATION

13

 TERUMO

## 販管費（四半期推移）

(億円)

		FY23 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)
人件費		336	349	371	373	398
販促費		49	44	54	54	52
物流費		47	46	49	51	51
償却費		58	61	65	66	70
その他		161	164	168	192	178
一般管理費		651	664	707	737	748
(売上比率)		(30.2%)	(29.0%)	(29.6%)	(30.9%)	(29.0%)
研究開発費		154	164	173	199	174
(売上比率)		(7.2%)	(7.2%)	(7.3%)	(8.3%)	(6.7%)
合計		805	828	881	937	922
(売上比率)		(37.4%)	(36.2%)	(36.8%)	(39.2%)	(35.7%)
四半期	USD	137円	145円	148円	149円	156円
平均レート	EUR	150円	157円	159円	161円	168円

©TERUMO CORPORATION

14

 TERUMO

## 販管費（前年同期比）

(億円)

	FY23 Q1	FY24 Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	336	398	62	18%	7%
販促費	49	52	3	6%	-2%
物流費	47	51	4	6%	-2%
償却費	58	70	12	21%	9%
その他	161	178	17	10%	2%
一般管理費計 (売上比率)	651 (30.2%)	748 (29.0%)	97	15%	5%
研究開発費 (売上比率)	154 (7.2%)	174 (6.7%)	14	13%	5%
販管費合計 (売上比率)	805 (37.4%)	922 (35.7%)	117	15%	5%

## 調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY23 Q1	FY24 Q1
調整後営業利益	345	511
調整① 買収無形資産の償却費	-46	-56
調整② 一時的な損益	-2	-9
営業利益	296	446

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY23 Q1	FY24 Q1
事業再編費用	-2	-11
その他	-	2

## 設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

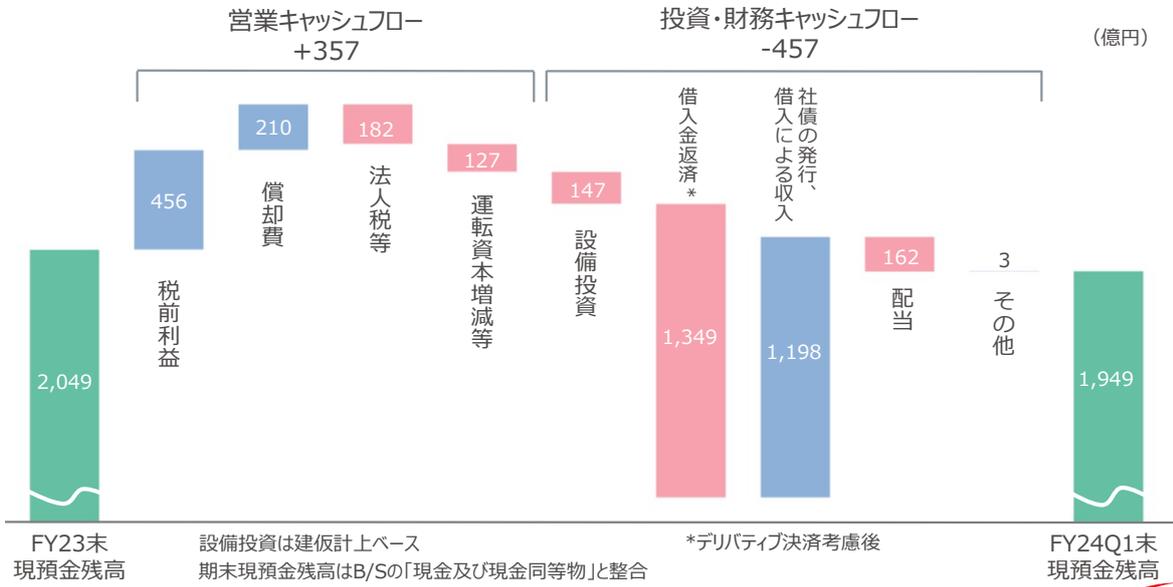
	FY21	FY22	FY23	FY24Q1	FY24予想
設備投資	692	758	784	147	930
償却費	532	635	702	192	770
買収無形償却費	161	188	200	56	200
それ以外	371	447	502	136	570

設備投資は、建設仮勘定計上ベース・リース含まず、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

■ FY24Q1実績（147億円）：CDMO（開発製造受託）等生産体制強化のため甲府工場内の新棟建設他、TISおよび血液・細胞テクノロジーの増産設備、原料血漿採取関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

	FY21	FY22	FY23	FY24Q1	FY24予想
研究開発費	518	616	691	174	715

# キャッシュフロー (Q1)



©TERUMO CORPORATION

18

TERUMO

## 為替感応度

1円の円安に対する年間影響額（フロー）

（億円）

	USD	EUR	中国元
売上収益	25	11	39
調整後営業利益	1	5	23

1円の円安に対する影響額（ストック）

	USD	EUR	中国元
調整後営業利益	-2.5	-0.6	-2.0

